平将門と七人の影武者

守谷市

天慶（てんぎょう）年間のころのお話です。

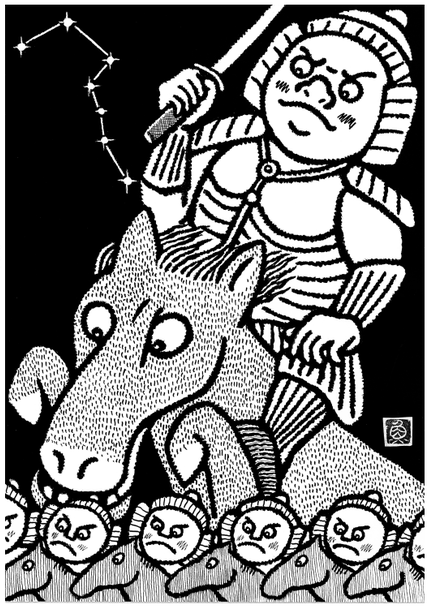
平将門[※1]が、小貝川の渡しで、平良兼（たいらのよしかね）[※2]と戦っていると、どこからかふしぎな子どもが現れました。将門が川を渡ろうとすると、子どもが

「こちらに浅いところがあります」

といって、将門軍を案内してくれるのです。

矢合わせ[※3]となると、どこからともなく、どんどん矢を持ってきます。武士たちが疲れたとみると、弓をひいたりもするので、とても並の子どもとは思えません。

不思議な子どもだと将門軍は思いましたが、しばらくして、この子どもが、下総（しもうさ）の国花園（いまの千葉市花園町）の妙見菩薩（みょうけんぼさつ）の化身だとわかりました。妙見菩薩は、北斗七星でもあり、[※4]国を守り、災害をなくし、人を幸せにしてくれるありがたい菩薩さまです。



将門は感謝を込めて、筒戸（つつど）（現在のつくばみらい市）や、領地のあちこちに妙見菩薩を迎え熱心に信仰しました。すると妙見菩薩は、戦いのたびに将門を守るために、姿かっこうがそっくりの七人の武者を送ってくれました。七人の将門が現れて合戦をすると、敵軍がいくら弓矢を放っても、矢は影武者の体をすり抜けてしまい、敵軍は頭を悩ませました。

ある時、藤原秀郷（ふじわらのひでさと）は、素性を隠して妹の桔梗を将門の館に送り込み、本物と影武者の違いを探らせると、影武者は、夜は北斗七星にもどり、ひと晩じゅう輝くため、地上では力が弱くなることを知りました。加えて、あかりを灯しても、体をとおしてしまうので影がうつりません。

桔梗がこっそり知らせると、秀郷は北山合戦で将門を見誤らず、討ち取ることになりました。

七人の影武者の話は、関東各地に残されており、茨城県では守谷市の海禅寺があります。

〈参考文献〉茨城県の民話（ふるさとの民話・偕成社）

※1 天慶（てんぎょう）（てんぎょう、てんけいともいう）
日本の元号の一つ。938年から947年までの期間。この時代の天皇は朱雀天皇、村上天皇。

※2 渡し……川や海を渡過する場所。

※3 矢合わせ…戦いを始める合図に、敵味方相互に矢を射合うこと。

※4 妙見菩薩…北斗七星を神格化したものといわれ、国土を守護し、災厄を除くという菩薩。

※掲載事項には諸説あります。

「運ぶ」を支え、地域社会を笑顔にする
ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社
本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215（大代） https://www.ibaraki-isuzu.co.jp